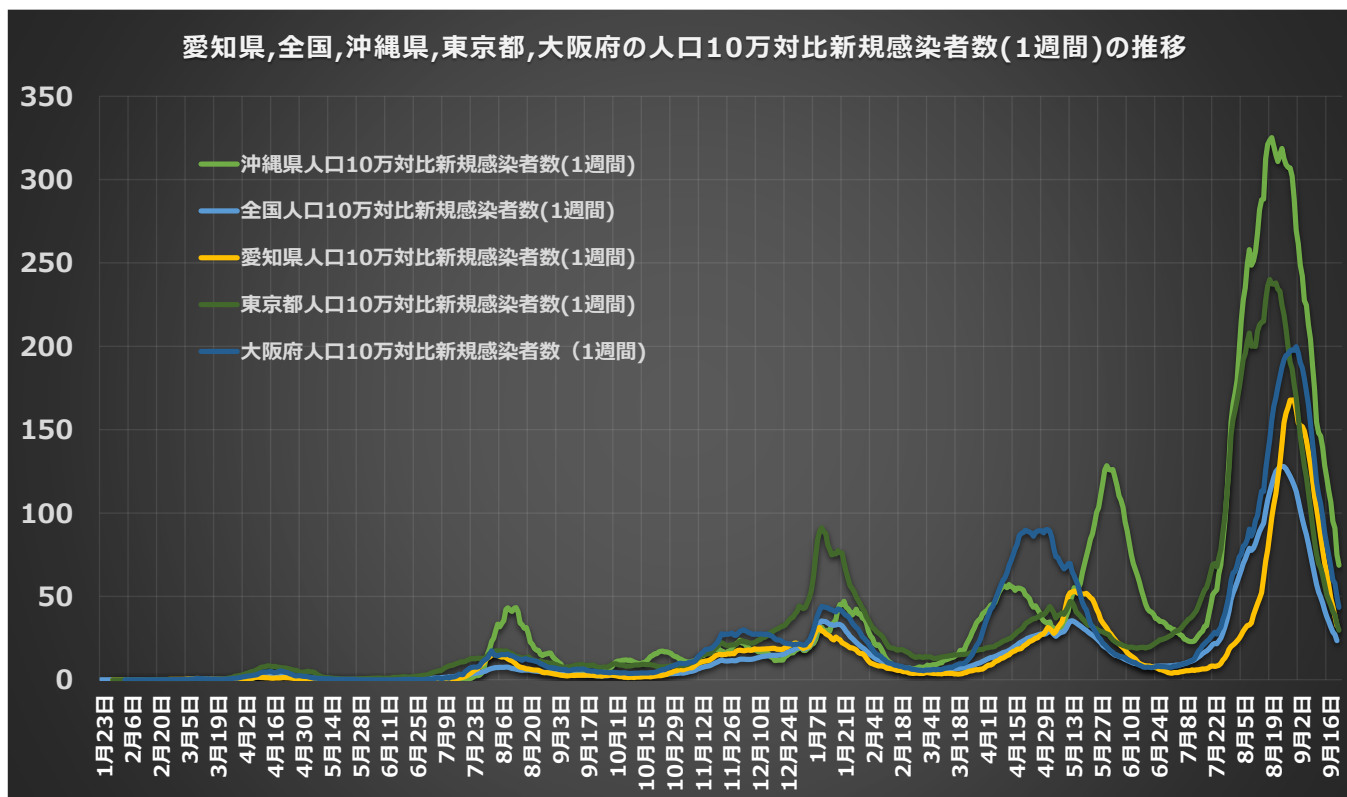


今冬にCOVID-19の第6波は襲来するか？ インフルエンザは流行するか？(再考)



第105報では、①第5波の新規感染者数の急峻な減少の原因は何か？②今冬に第6波は襲来するか？③インフルエンザの流行はあるか？についての私見を提示、諸兄弟の御意見、御批判を頂ければと思いました。

①第5波の感染者数の急峻な減少の原因は何か？

8月3日の「入院は重症者のみ」と云う首相の発表、その後の自宅死の報道は、国民に衝撃を与え、第1波の緊急事態宣言と同等のインパクトで国民の行動変容を促したと思います。それを表す具体的な指標は見つかりませんが……。

プラス、8月19日にワクチン接種完了者が40%を上回った事も急峻な新規感染者数減少の要因かと考えます。

インドの新規感染者数の急減などを例に、デルタ株の「ウイルスの自壊」説を唱える児玉龍彦先生の報道もありましたが、眉唾物と考えます。なぜなら・

Daily new confirmed COVID-19 cases

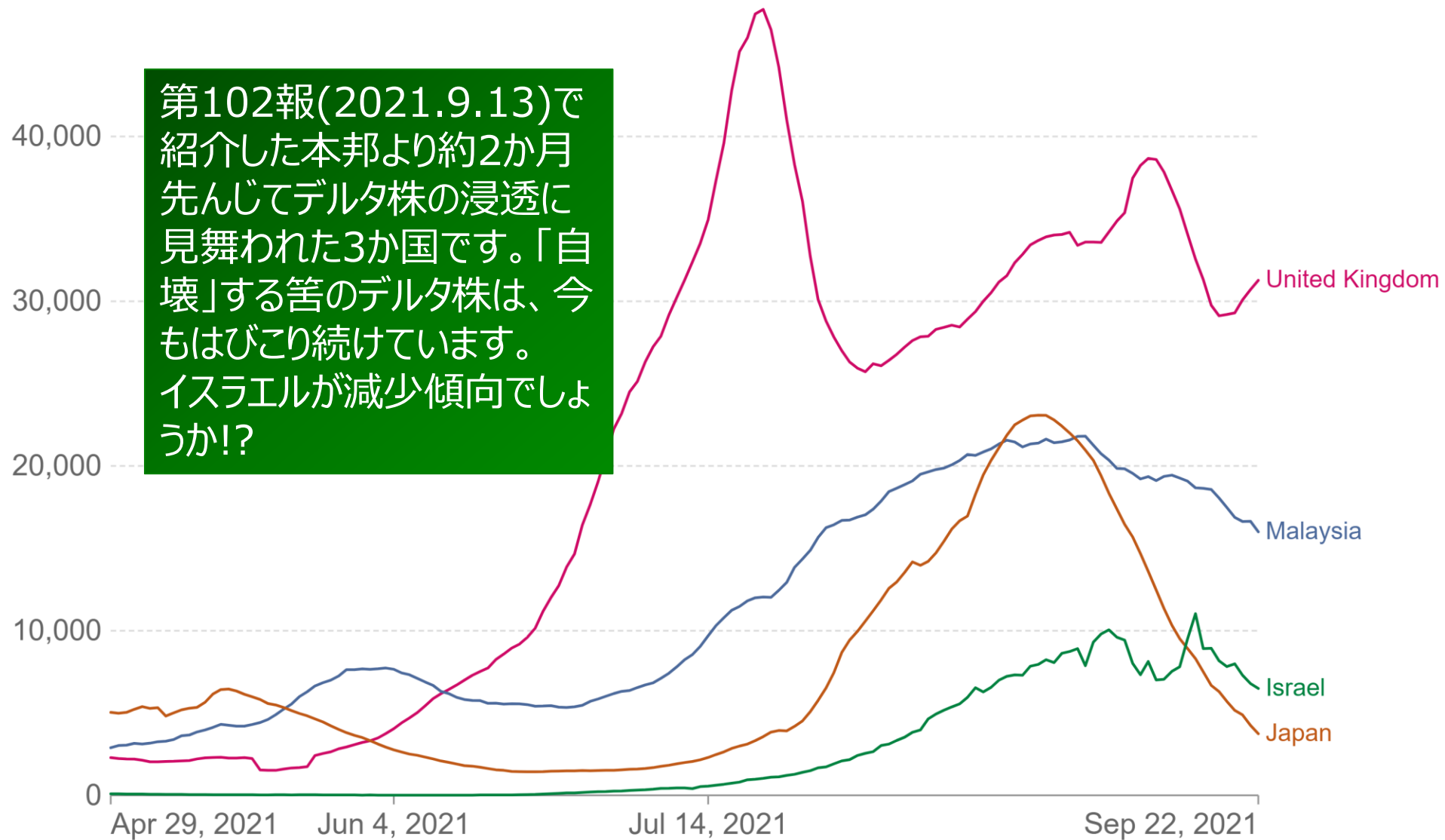
The number of confirmed cases is lower than the number of actual cases; the main reason for that is limited testing.



「自壊」した筈のデルタ株で今も約3万人/1日の新規感染者がインドで発生しています。

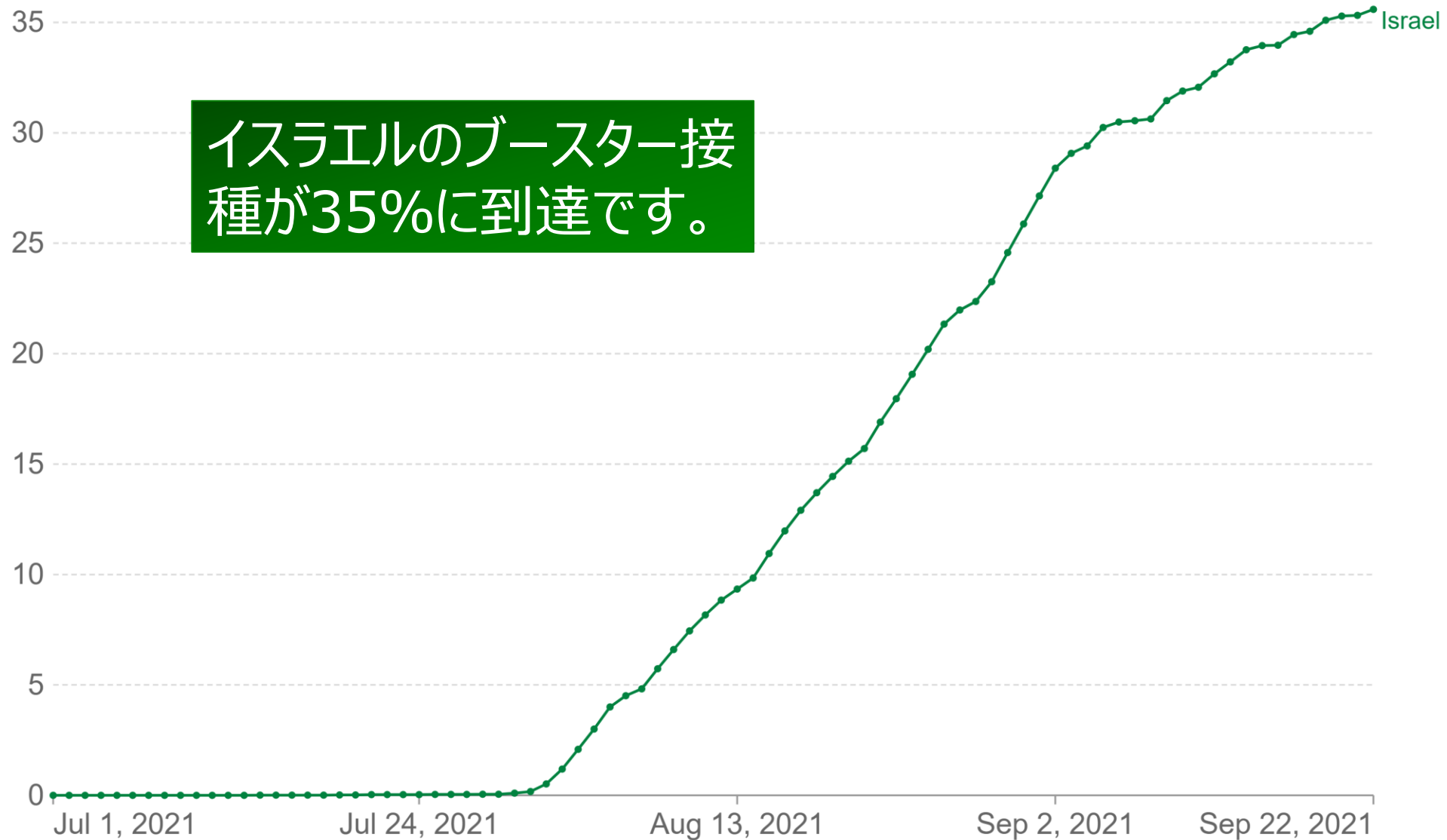
Daily new confirmed COVID-19 cases

Shown is the rolling 7-day average. The number of confirmed cases is lower than the number of actual cases; the main reason for that is limited testing.



COVID-19 vaccine booster doses administered per 100 people

Total number of vaccine booster doses administered, divided by the total population of the country. Booster doses are doses administered beyond those prescribed by the original vaccination protocol.



イスラエルのブースター接種が35%に到達です。

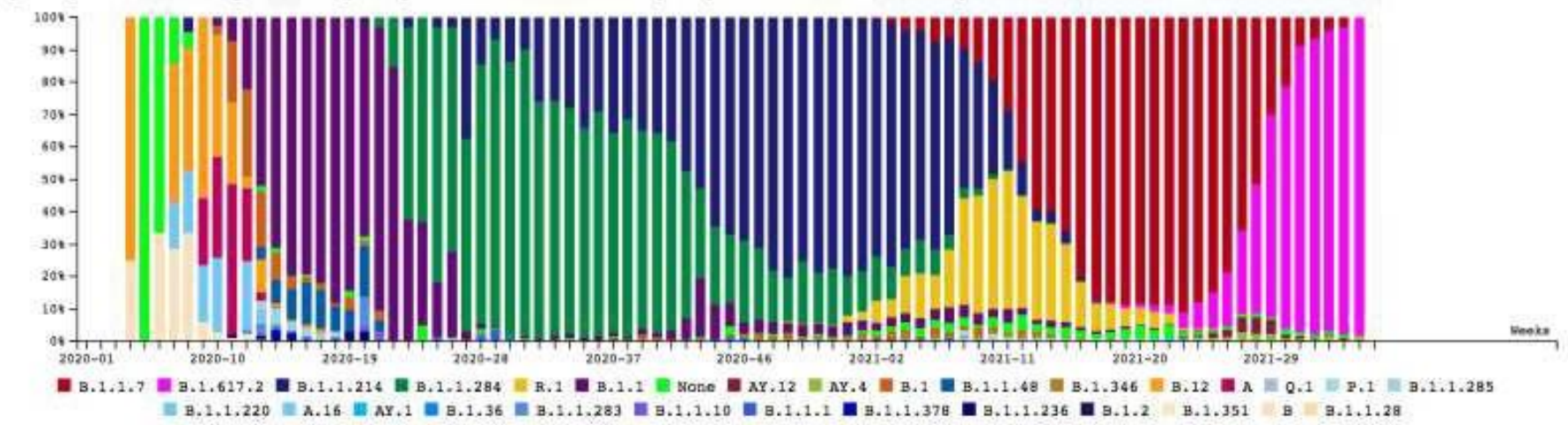
②今冬に第6波は襲来するか？

新型コロナウイルス ゲノムサーベイランスによる系統別検出状況（国立感染症研究所）

[Only Domestic] Weekly Top 30 Graph (count each week)



[Only Domestic] Weekly Top 30 Stacked Graph (count each week)



第2波は国内で変異したB.1.1.284株、第3波は同じく国内で変異したB.1.1.214株、第4波は海外から持ち込まれたアルファ株、第5波は同じく海外から持ち込まれたデルタ株による流行であったと後方視的に解釈されます。

国内で新たなデルタ株を駆逐する変異株が出現するか、あるいは海外から持ち込まれる事がない限り、大きな第6波の今冬の襲来はないと予測します。

しかし、「8月3日の恐怖」が忘れられ、ワクチン接種済の安心感から、緩んだ行動変容になり、医療機関・高齢者施設でのブレークスルー感染クラスター、保育施設・学校関連のクラスターも起点となり、今冬はデルタ株の「さざ波」的な流行が続くのではないかと予測します。

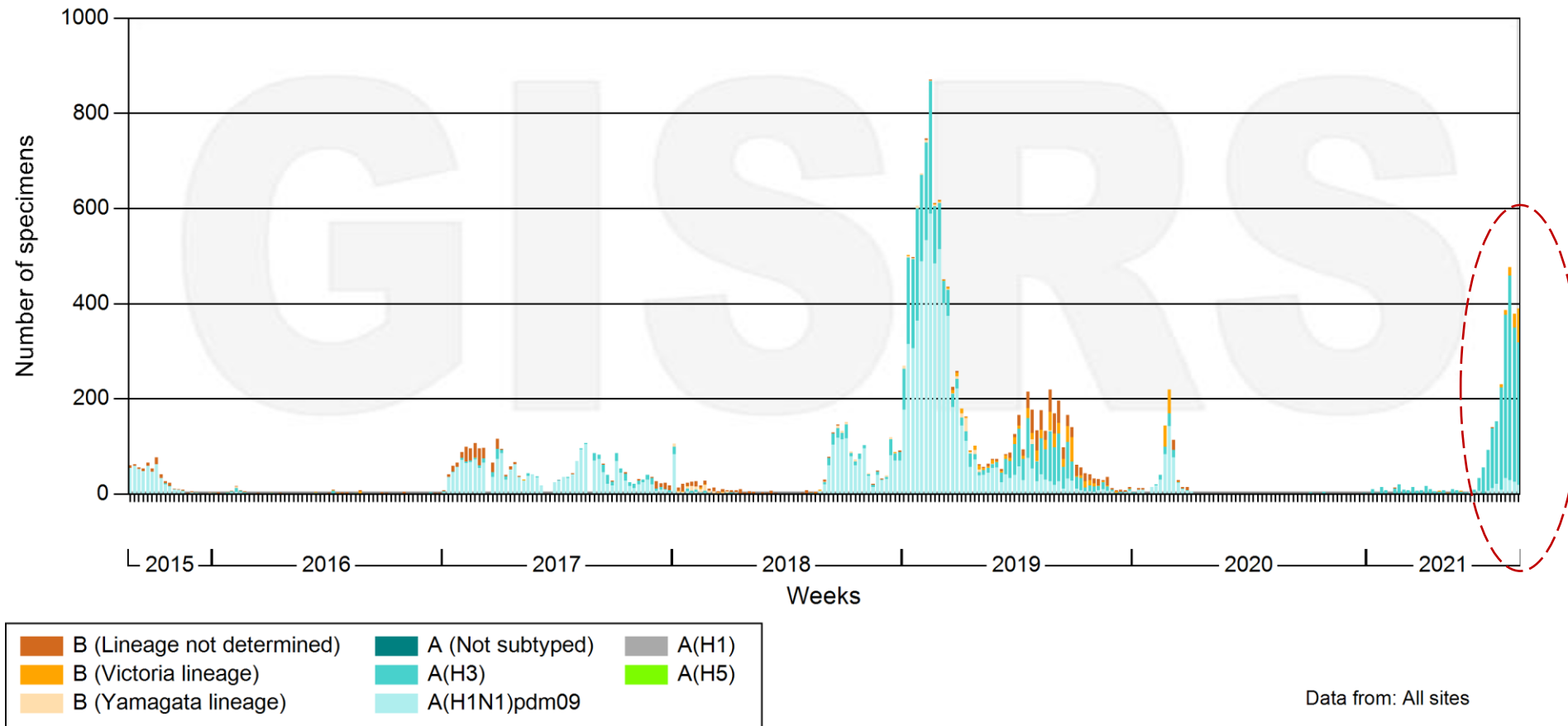
③今冬にインフルエンザの流行はあるか？

Flunet (who.int)のデータで南半球の今冬期インフルエンザの流行がなかった事より、第102報(2021.9.13)では、本邦でも今冬期にインフルエンザの流行はないであろうと示唆しました。しかし・・・

インドでA(H3)が発生して
いました!! 拡大すると...

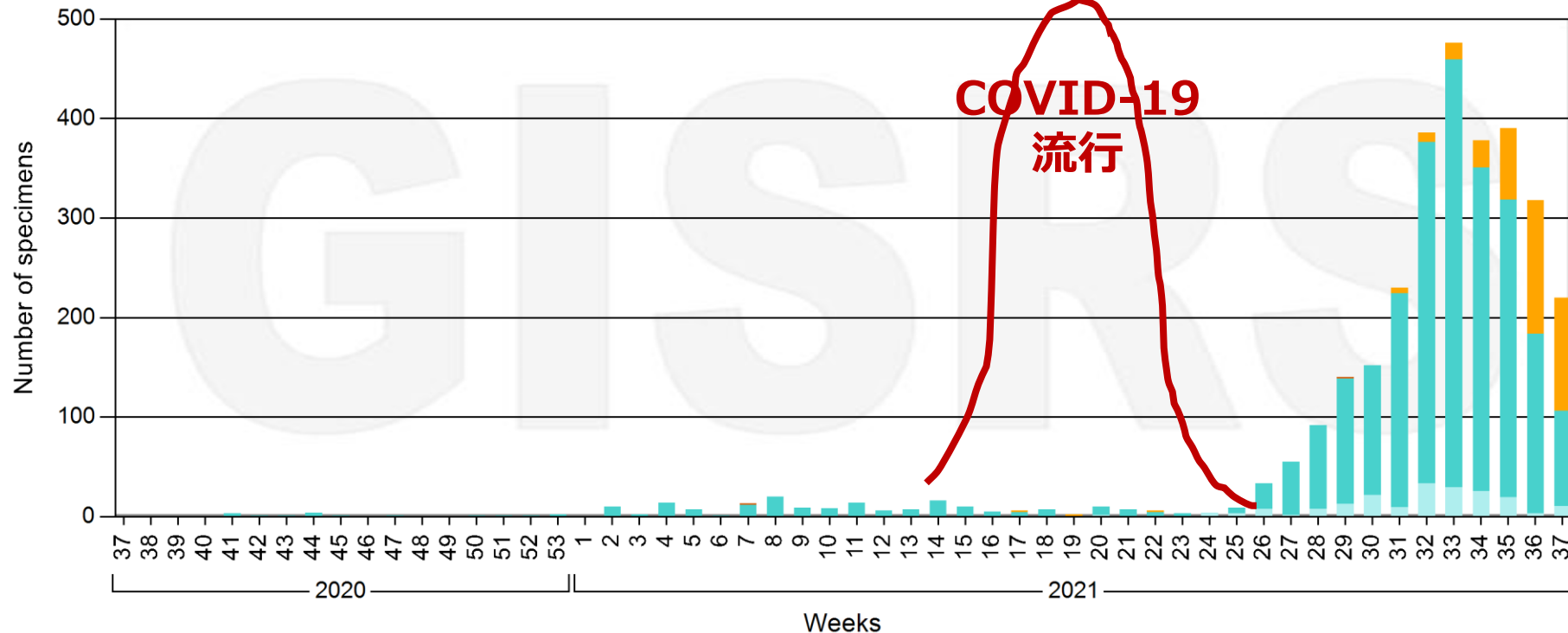
India

Number of specimens positive for influenza by subtype



India

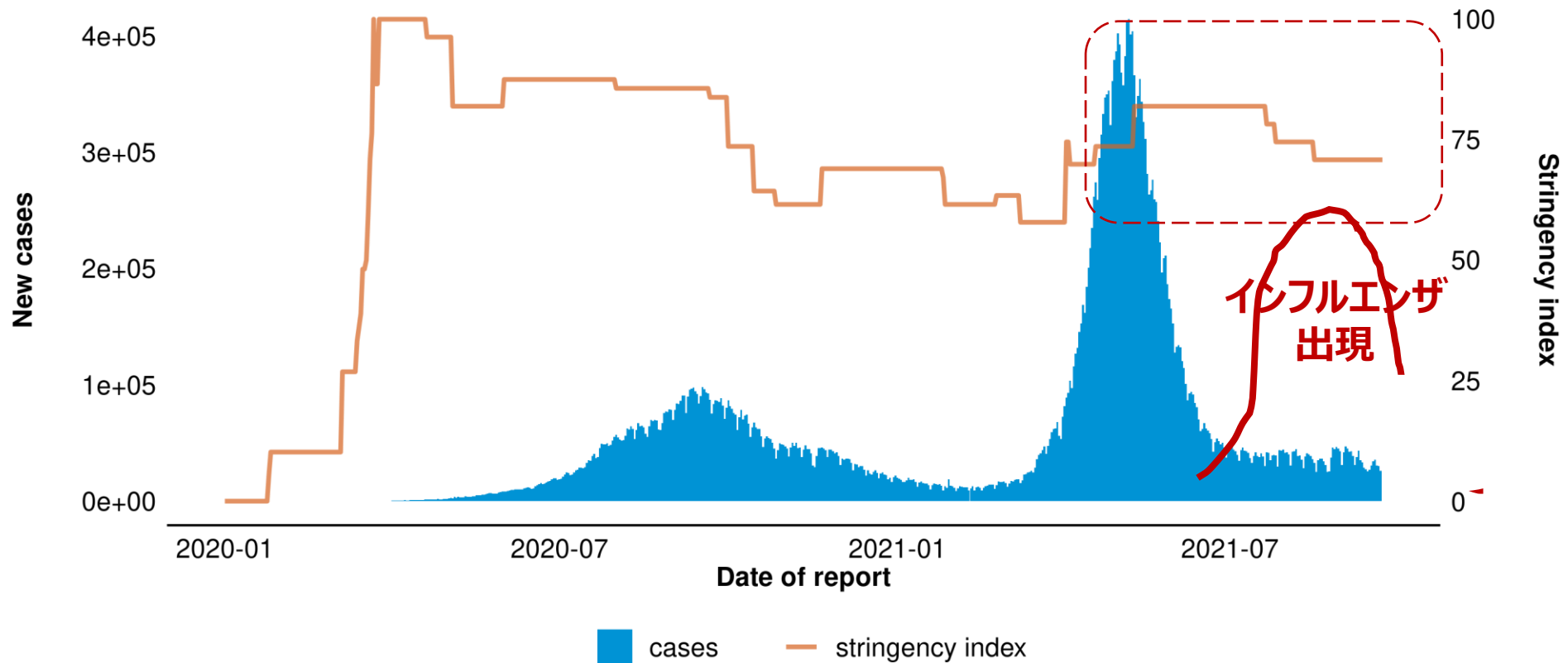
Number of specimens positive for influenza by subtype



Data from: All sites

WHO Coronavirus (COVID-19) Dashboardより

Response: India



Source: Oxford Coronavirus Government Response Tracker

インドでインフルエンザが発生した時期に行動規制は緩められていません。
という事は、SARA-CoV-2とインフルエンザウイルスの間でウイルス干渉が
生じた可能性があります。

今冬のデルタ株の「さざ波」流行が小さ過ぎると、ウイルス干渉*から今冬の本邦でのインフルエンザ流行があり得ると危惧されました。今後数か月の国立感染症研究所、あるいは愛知県衛生研究所などから公表される感染症情報の「インフルエンザ定点あたり報告数」に注目が必要かと考えます。

*ウイルス干渉とは、あるウイルスが流行すると他のウイルスが流行しないというもの。ウイルス同士で宿主の奪い合いをして勝ち負けが出ているような状況